

様式 1

令和 6 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 7 年 2 月 6 日

江別市立大麻東中学校

1 本年度の重点目標

自分のよさを発見し、かかわりの中で磨き合う生徒の育成
～「決める」「伝える」「分かち合う」気持ちを大切に～

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	・すべての子どもが自らの考えと他者の考えの価値交換を行い活躍する授業づくりを推し進める。	A	・育成を図る力を端的に示すことで、教職員の意識付けを図った。半期ごとに教職員個々が目標を設定し対話を取り入れた授業改善を推進、また校内研究でのグループ協議や教科部会での実践交流を通して、重点目標の達成を目指した。各教科等をはじめ、学校行事等においても、今年度の重点目標「自分のよさを発見し、かかわりの中で磨き合う生徒の育成」をねらいや評価項目に織り込むなどして、子どもたちの力をより伸ばそうとする姿勢が感じられた。対話を位置付けた授業については、価値を明確にしつつ継続的に取り組んでいく必要がある。	A	A
	・めざす子ども像の共有を図るための学校経営方針及び課題等について、えべつ型CSに係る学校運営委員会等の熟議の活性化を図る。	A	・学校運営委員の皆さんやPTAとの対話機会において、学校の経営方針への理解をいただくとともに、子どもたちへの温かいまなざしを強く感じる事ができ、学校の活力につながった。体育祭でのPTA種目の実施、おやじの会の焼き鳥など、活動が具体化し、地域とのつながりが直接的に子どもに伝わる場となっている。今後も、地域行事への参加、様々な対話機会において顔の見える関係づくりと適時適切な情報発信に努めていきたい。	A	A
教	・反復や繰り返しに加えて、活用や発揮する場面を設定して、より確かな知識・技能の習得を目指し	A	【肯定的な回答96%】 ・より確かな知識・技能の習得を目指し、組織として授業改善に臨んだ。教科部会を年間計画に位置付け、お互いの授業実践を交流するなど、より	A	A

育 課 程 ・ 学 習 指 導	ている。		良い授業づくりを目指し、高めあう場と雰囲気が醸成された。今後も教員の交流する場、学びの場を作っていく。		
	・発話や書くことなど、考えを共有する場を位置付けた授業を展開し、思考・判断・表現力の向上を目指している。	A	【肯定的な回答96%】 ・全国学力学習状況調査や前期の学校評価の分析を活かし、後期の教科指導の重点を設定した。具体は①「書く・話す」場面の意図的な設定、②自分の考えと他者の考えの価値交換を行わせる、である。どの教科でも共通して授業に取り入れるなど、教職員が共通の認識に立ち一体となって子どもたちの資質・能力の向上を目指せたことは大きい。	A	A
	・生徒が考えを整理したり深めたりするために、有効なアプリ等の活用をしている（試みている）。	B	【肯定的な回答78%】 ・今年度も若手教員によるICT活用のミニ研修などを実施し、協働の雰囲気を高めようとした。全国学力状況調査の生徒質問紙からタブレットをはじめとしたICT活用が有効であるという回答が多い。時代の急速な流れの中、苦手ながらも授業での活用を目指そうとする教員の姿が増えてきた。より有効な活用方法について、教職員間の情報共有を進めていきたい。	A	A
	・教科学習への取り組み方を理解させ、教材の準備を通して、生徒が主体的に学ぶ力を育もうとしている。	A	【肯定的な回答96%】 ・主体的に学ぶ力を育むため、授業のねらいや目的を明確にすることを大切にし、授業づくりに取り組んできた。また教科に限らず、子どもたちの自己決定やフィードバックの機会を取り入れ、自己肯定感から主体性の向上を目指した。引き続き、子どもが主役となる授業づくりを目指す。	A	A
	・個別の教育的支援を必要とする生徒の指導・支援に向けて、視覚的な支援やスモールステップによる指導、肯定的・好意的な働きかけなど、特別支援教育の視点を踏まえた指導・支援を行っている。	A	【肯定的な回答100%】 ・特別支援学級在籍の生徒のみならず、通常の学級に在籍する生徒についても、配慮すべき個々の背景について定期的に共有して、指導・支援に当たっている。特別支援コーディネーターの専門性が高く、教員が指導・支援で迷ったときにも校内支援委員会のみならず、関係する教員で日々ミーティングが行われている。	A	A
生徒	・自他の命や人権の大切さについて感じ取る心情を養う指導・支援を学年や部活動担当等で協力しながら継続的に行っている。	A	【肯定的な回答100%】 ・毎月の職員会議等において、生徒の実態を交流し、当該月に重点とする指導内容を確認しながら生徒指導に当たっている。また教職員がチームとして取り組む体制づくりに力を入れた。引き続き、家庭や地域との連携は欠かせない。	A	A

指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士が考えを交流する場面や何かを成し遂げる活動を通して、他者とのよりよい関係づくりについて考えさせている。 	A	<p>【肯定的な回答100%】</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元の中での発表や交流機会や、様々な成功体験の積み重ねることを意識してきた。またすべての教育機会を通して、思いやりの心を育てるように「担い・認め合う」ことを基本に指導をしている。今年度は生徒総会において、髪型についての校則の見直しが決まった。今後も子どもの豊かな発想を大切にしたい潤いのある教育活動を充実させていく。 	A	A
	<ul style="list-style-type: none"> 心身の健康の大切さを指導し、通信の活用など、必要な働きかけを行っている。 	A	<p>【肯定的な回答100%】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健便りを中心に時期に応じた啓発を行ってきた。困ったときに相談できる生徒と教職員との信頼関係づくりや相談体制の整備など組織として目指してきた。また、ゲームや端末の望ましい使用について、外部講師を招聘するなどして啓発してきたが、今後も計画的・継続的に啓発を行っていく必要がある。 	A	A
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に進んで笑顔で挨拶するとともに、必要な場面で生徒に指導している。 	A	<p>【肯定的な回答91%】</p> <ul style="list-style-type: none"> 率先垂範の姿勢の大切さを教職員で共有し、指導を行ってきた。挨拶ができる子どもが多いが、悩みや不規則な生活習慣に起因する心身の不調を訴える子ども散見されることから画一的ではないアプローチが求められる。 	A	A
小中一貫教育	<ul style="list-style-type: none"> 小中一貫教育の推進組織における各部の活動において、計画にしたがって取組がなされている。 	A	<p>【肯定的な回答100%】</p> <ul style="list-style-type: none"> 校区内の小学校教職員と顔の見える関係づくりが進むとともに、協働して子どもたちを育てようとする雰囲気が高まっている。各部の取組は反省を踏まえて見直しを図りながら計画的に推進されている。小中一貫教育の効果には必ずしも即効性が感じられないことから、継続した取組と家庭、地域への情報発信がより必要と考えている。 	A	A
その他	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革コアチームやプロジェクトチームの提案を着実に進め、少しずつ業務改善がなされている。 	B	<p>【肯定的な回答77%】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全教職員が参画して、教育活動や業務の在り方についてアイデアを出し合いながら、改善に向けた努力を行っている。教職員の実感として心身の余裕につながっているとはいえない状況である。働き方改革が、業務量の削減だけではなく、教職員の働き甲斐につながることも大切にしながら、組織運営を推進する。 	A	A
【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】					

- ・各評価項目に対する達成状況及び改善の方策については、すべて適正に評価されている。
- ・体育祭におけるPTA種目の実施や地域おやじの会による焼き鳥販売については、子どもたちに見える地域・保護者連携であった。
- ・教職員の業務軽減に向けて、学校として様々な努力をしていると思うが、学校だけでは限界がきていると思う。学校運営委員として協力できることがあれば力になりたい。また、地域・保護者に働き方改革の実施状況を伝えてはどうだろうか。

【評点】 A：よい B：おおむねよい C：ややよくない D：よくない